

# 『百年の森林に囲まれた上質な田舎』を目指して 西粟倉村の取組

ながれ

大谷 夏子 (おおたに なつこ / 岡山県西粟倉村 地域おこし協力隊)

西粟倉村は岡山県の北東端、中国山地の脊梁部にある人口1350人ほどの小さな村です。面積も約57km<sup>2</sup>(世田谷区とほぼ同じ)と小規模な自治体ですが、脱炭素先行地域、SDGs未来都市、バイオマス産業都市、環境モデル都市に認定され、地域を拠点に様々な事業を展開する「ローカルベンチャー」が多く集まる村でもあります。行政施策の中心にあるのは、先達から受け継いだ森林を村ぐるみで育てていくことを宣言した『百年の森林構想』。今回は、同構想の起こりから今新たに生まれている事業についてお伝えします。

## 2004年 合併協議会を離脱

### 独自の道を歩むことを決める

2004年、西粟倉村は県北東部の自治体で構成される市町村合併に向けた協議会を離脱しました。政府主導の「平成の大合併」により行政基盤の強化や地方分権の推進などが目指される中、当時の道上村長は合併によって学校の統廃合などが起こり、地域の「悪い流れ」が加速するのではと感じたそうです。様々な議論がある中、有権者を対象にした住民アンケート(回収率:96.76%)は「合併する」305人(21.73%)、「やむを得ず合併する」264人(18.80%)、「合併しない」574人(40.88%)、「できれば合併しない」245人(17.45%)、「無効」16人(1.14%)という結果に。合併反対数が賛成数を上回り、西粟倉村は単独の自治体として存続する道を探すことを決めました。(※1)

## 地域再生の旗印『百年の森林構想』

村は総務省の地域再生マネージャー事業を

活用し、持続可能な社会の実現を目指すアミタ株式会社とともに村の理念をなるものを探し始めます。アミタ(株)の親会社・アミタホールディングス(株)の代表取締役会長の熊野氏と道上氏、道上氏により選出された村の将来を担うであろう10名の若者によって議論が重ねられました。熊野氏は大量生産・大量消費の経済よりも、「モノ」の購入を通じて得られる土地や作り手とのつながりが重視される経済の必要性を説き続けました。対話のなかで「西粟倉にあるもの」として浮かび上がってきたのは、西粟倉の人、そしてその心でした。祖先の残した山を想う気持ちを核に、森林保全と心のつながりを大切にしながら、地域経済に貢献する『心産業』の創出が始まりました。そして、『心産業』の林業の形として、『百年の森林構想』と百森事業が誕生。百年の森林構想が公に宣言されたのは、理念を探る議論が始まってから四年後のできごとでした。

西粟倉村は面積のうち93%が森林で、その84%は人工林、また、人工林のほとんどは戦後の住宅需要によって植えられた当時で樹齢50年ほどのスギ・ヒノキです。子や孫の財産になるようにと育てられてきましたが、木材価格の下落により木が売れなくなった(正確には、木を市場に出すまでの経費が売値を上回るようになった)ため、山を手入れし続ける人は減っていました。百森事業では、個人の山を役場が預かり、広域的な視点で手を入れ、村内で流通・製品化することで、木材という地域の重要な資源に付加価値をつけ、経済を循環させることを目指しています。

西粟倉村の人々が山林に寄せる想いや当時の西粟倉村の決意は、百年の森林構想の宣言文から読み取ることができます。

“地域には、捨ててはいけないものがあります。苦勞を重ねて地域を守ってきた先人のため、これから生きていく子どもたちのため、そして関わってくださるたくさんの方々のため。約50年前に、子や孫のためにと、木を植えた人々の想い。その想いを大切にして、立派な百年の森林に育て上げていく。そのためにあと50年、村ぐるみで挑戦を続けようと決意しました。

西粟倉村は、人口1600人ほどの源流域の小さな村です。このような小さな村だからこそ、未来に向けて心と心を丁寧につなぎあわせていくことができるはずです。世代を超えて、そして地域を超えて、未来への想いを共有する森づくりへ。そして大切な自然の恵みを大切な人たちと分かち合う上質な田舎づくりへ。”

その後、百年の森林構想は村内プレイヤーの起業、「共有の森ファンド（国内初の森林・林業支援の事業ファンド）」や木工職人の移住・起業などを引き起こします。（※2）

### 『百年の森林に囲まれた上質な田舎』を目指して エネルギー自給率100%を目指す

村のこれからについての議論の中で、『心産業』を通して実現する村の姿は、『百年の森林に囲まれた上質な田舎』と言い表されるようになりました。再生可能エネルギーの取組は、「何が『上質な田舎』なのか？」という問いと繋がっています。これまでに、既存の小水力発電所の改修や、品質の低い木を木質バイオマスとして利用する発電・熱供

給、太陽光発電設備の設置などが実施済みです。数種のエネルギーを組み合わせることで供給を安定させ、木質バイオマスであれば山から出る木の量から逆算して設備を設計するなど、環境を傷めないように計画されています。（※3）

### 村産電気を村民も関係人口も

#### 使えるようにする会社「百森でんき」

2023年には、村内でのエネルギーの循環システムを構築するため、各種再エネ設備の管理や、太陽光パネルの設置、電気の村内利用促進を行う会社、西粟倉百年の森林でんき㈱が設立されました。また、電気の利用を通して村外の方にも村の取組を応援していただけるよう、ふるさと納税の返礼品に村で作られた再エネ100%の電気が加わりました。（※4）

### 結び

村の歩みを遡ると、それは、先達が村の未来のために尽力してきた歴史であると同時に、西粟倉村の取組が多くの方々との共感をよび、応援されてきた歴史でも感じます。

「共有の森ファンド」のような機会だけでなく、村の製品を買ってくれる方や村の取組を広めてくださる方など、数えきれない方々の力によって今の村があり、これからも村に新たな価値が生まれてくるのだと思います。

この記事が、西粟倉村に少しでも興味を持っていただくきっかけになれば幸いです。

### 【参考】

- （※1）[https://throughme.jp/idomu\\_nishiwakura\\_michiue/](https://throughme.jp/idomu_nishiwakura_michiue/)  
いま振り返る『百年の森林構想』とは
- （※2）[https://throughme.jp/meguru\\_nishiwakura\\_kokoro/](https://throughme.jp/meguru_nishiwakura_kokoro/)  
心産業の議論から、この村のチャレンジが始まった
- （※3）[https://throughme.jp/idomu\\_datsutanso\\_part1/](https://throughme.jp/idomu_datsutanso_part1/)  
西粟倉村の再生可能エネルギー 2022 前編
- （※4）<https://denki.gurugurumeguru.jp/lp/#inquiry>  
百森でんき申し込み